

漁況予報 い わ し

第197号

【2016年9～10月漁期】

※1 平年：過去5年平均

※2 被鱗体長：口先から尾ビレの付け根までの長さ

= 概 況 =

【マイワシ】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は、7月は390トンと前年(260トン)及び平年※¹(159トン)を大きく上回りました。続く8月も340トン(速報値)で、前年(300トン)及び平年(165トン)を大きく上回りました。

まき網は、東京湾および相模湾で計5.7トンの水揚げがありました。

魚体は、7月が被鱗体長※²(以下同)10-13cm、8月が12-14cm主体で、これは2016年生まれの当歳魚で、春生まれのマシラス(マイワシ仔魚)が成長したものです。

これまでの漁況経過では、2015年生まれ群より本県沿岸域への来遊量は多そうです。

【カタクチイワシ】

主要定置網におけるカタクチイワシ総漁獲量は、7月は205トンで、前年(166トン)および平年(180トン)を上回りました。続く8月も240トン(速報値)で、前年(12トン)および平年(27トン)を大きく上回りました。

鴨居地区及び佐島地区(1ヶ統)のまき網は餌イワシとして断続的に漁獲しました。

魚体は、7月は9-10cmの小型成魚主体でしたが、8月は6-8cmの未成魚が主体となり、8月での200トン超えの漁獲は2007年(380トン)以来となります。

【シラス】

春シラスが前年比、平年比ともに若干好漁となった相模湾のシラス漁ですが、7月に入ると新規加入が少なく徐々に漁獲水準は落ちていきました。7月の全体漁獲量(標本船データより推定)は大不漁だった前年は若干上回ったものの、平年を大きく下回りました(前年比1.3倍、平年比0.5倍)。

8月に入っても漁模様が上向き気配が一向になく、台風による休漁日が多かったことを差し引いても不漁となり、全体漁獲量は前年・平年割れとなりました(前年比0.4倍、平年比0.2倍)。8月としては1990年以降で過去最低の漁獲水準となった地域が多かったものと思われます。

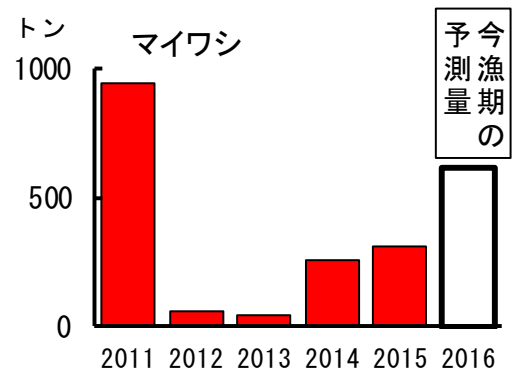
= 予 報 =

過去5年の9・10月漁期の漁獲量と
今漁期の予測量

【マイワシ】

今漁期は、2016年生まれの小羽マイワシ（13～15cm）が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、春季のマシラスの漁獲状況から、前年を大きく上回る約610トンと予測されます。

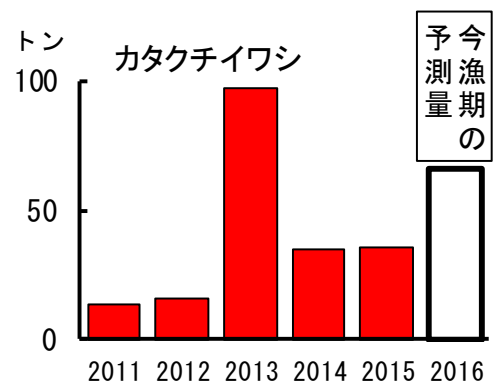


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【カタクチイワシ】

今漁期は、未成魚（6～8cm）が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、前年を大きく上回る約66トンと予測されます。

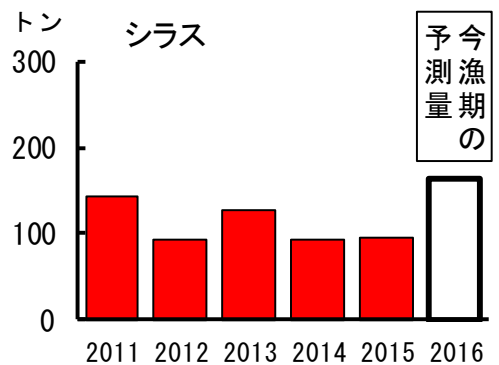


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【シラス】

今漁期は、7月以降に生まれたカタクチシラスが漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、7～8月の相模湾周辺のカタクチイワシ卵分布状況から、前年を大きく上回る約164トンと予測されます。



神奈川県水産技術センター企画資源部
三浦市三崎町城ヶ島 (046)882-2313